

お客様各位

株式会社 PFU  
PFU タイムスタンプサポート窓口

## PFU タイムスタンプ SDK for Java 入替え作業について

謹啓

平素はセイコーソリューションズ株式会社（以下 SSOL 社）提供の「SEIKO タイムスタンプサービス」、ならびに弊社タイムスタンプ製品をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

本資料では、弊社提供の「PFU タイムスタンプ SDK for Java」（以下 Java SDK）の修正更新版（V.20L21）への入替え作業について説明しております。お手数をおかけし恐縮ではございますが、下記手順をご参照いただき、入替え作業の実施をお願い申し上げます。

謹白

記

### 作業概要：

現在インストールされている Java SDK のライブラリファイル（pfu-stdlib.jar）を、新しく提供する pfu-stdlib.jar で上書きしてください。

手順は、ご利用のアプリケーションによって異なります。

#### 1. pfu-stdlib.jar ファイルを組み込んだ Java アプリケーションをご利用の場合

- ① タイムスタンプを取得するアプリケーションを終了します。
- ② 必要に応じて現在の pfu-stdlib.jar ファイルをバックアップ（作業フォルダにコピー）します。
- ③ 新しい pfu-stdlib.jar ファイルをコピーします。
- ④ アプリケーションを再開します。
- ⑤ タイムスタンプの取得および検証処理の動作検証を行います。

### 注意：

- 現在運用されている定額制サーバーおよび pfu-stdlib.jar ファイルのバージョンを確認する場合は、「補足情報」の「定額制サーバーのバージョン確認方法」および「pfu-stdlib.jar ファイルのバージョン確認方法」をご参照ください。

## 2. 「PFU タイムスタンプ定額制サーバー (TimeStampManager)」をご利用の場合

- ① Apache Tomcat のサービスを停止します。
- ② 必要に応じて現在の pfu-tslib.jar ファイルをバックアップ（作業フォルダにコピー）します。
- ③ 新しい pfu-tslib.jar ファイルをコピーします。定額制サーバーの場合は、インストール先配下、www¥WEB-INF¥lib フォルダにあります。
- ④ Apache Tomcat のサービスを再開します。
- ⑤ タイムスタンプの取得および検証処理の動作検証を行います。

### 注意：

- Apache Tomcat が停止している間は、クライアントアプリケーションからタイムスタンプの取得を行うことはできません。
- 現在運用されている定額制サーバーおよび pfu-tslib.jar ファイルのバージョンを確認する場合は、「補足情報」の「定額制サーバーのバージョン確認方法」および「pfu-tslib.jar ファイルのバージョン確認方法」をご参照ください。

### 補足情報：

#### 1. Java ライブラリのバージョン確認方法

- 1) コマンドプロンプトを起動します。
- 2) 定額制サーバーモジュールのインストール先配下、www¥WEB-INF¥lib¥に移動します。  
以下の例では、インストール先は、C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy（既定値）です。

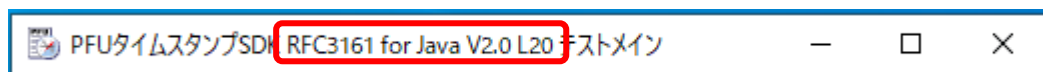
```
C:¥WINDOWS¥system32>cd C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib
C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib>_
```

- 3) 以下のコマンドを入力すると、テストツールが表示されます。

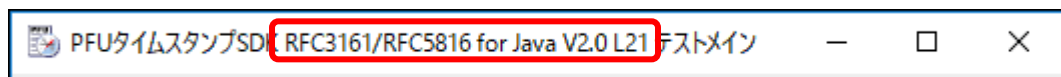
```
java -jar pfu-tslib.jar -version
```

```
C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib>java -jar pfu-tslib.jar -version
```

現行バージョンは、テストツールのタイトルが、「PFU タイムスタンプ SDK RFC3161 for Java V2.0L20 テストメイン」です。



入替え後バージョンは「PFU タイムスタンプ SDK RFC3161/5816 for Java V2.0L21 テストメイン」です。



### 注意：

このテストツールは、弊社動作確認用の内部ツールであり、お客様環境でこのツールを使用してタイムスタンプを取得することはできません。

## 2. 定額制サーバーのバージョン確認方法

現在運用されている定額制サーバーのバージョンの確認手順を以下に示します。

- 1) コマンドプロンプトを起動します。
- 2) 定額制サーバーモジュールのインストール先配下、`www¥WEB-INF¥lib¥`に移動します。  
以下の例では、インストール先は、`C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy`（既定値）です。

```
C:¥WINDOWS¥system32>cd C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib
C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib>_
```

- 3) 以下のコマンドを入力すると、バージョンが表示されます。

```
java -jar pfu-tsaproxy.jar -version
```

```
C:¥Program Files¥PFU¥tsaproxy¥www¥WEB-INF¥lib>java -jar pfu-tsaproxy.jar -version
PFU Timestamp Manager V2.0L10
```

※1：現行バージョンは、V2.0L10 です。

※2：今回の対応では、pfu-tsaproxy.jar のバージョンは変わりません。

## 3. 動作確認方法

以下のサーバーにて動作確認を行うことができます。

- テストサーバー接続情報

<https://chsm-timestamp.seiko-cybertime.jp/basic/Timestamp>

テストユーザーアカウント：SSOL\_X99

パスワード：SSOL\_X99

- Java アプリケーションをご利用の場合の動作確認方法

- ① アプリケーションの接続先を、上記テストサーバー接続先情報に変更し、タイムスタンプの取得・検証を実施してください。

- 定額制サーバーでの動作確認方法

- ① Apache Tomcat のサービスを停止します。
- ② 定額制サーバーモジュールのインストール先配下、`www¥WEB-INF¥lib` フォルダにある、`tsaproxy.properties` ファイルをバックアップ（作業フォルダにコピー）します。
- ③ 弊社より提供した修正セットに含まれている `tsaproxy.properties` ファイルを `www¥WEB-INF¥lib` フォルダにコピーします。
- ④ Apache Tomcat のサービスを起動します。
- ⑤ 『定額制サーバ導入手順書』の「8.3 タイムスタンプ取得確認」に従って、タイムスタンプの取得確認を実施してください。
- ⑥ クライアントアプリケーションからタイムスタンプ取得リクエストを行い、システムとしてタイムスタンプの取得・検証を実施してください。
- ⑦ テストサーバーでの検証が終わったら、`tsaproxy.properties` ファイルを元のファイルに復元します。

**留意事項：**

- 今般変更されるタイムスタンプ発行ポリシーは、アプリケーションの実装によって取得される値が異なります。

（旧値）1.2.840.113549.1.9.16.2.12 (id-aa-signingCertificate)

（新値）1.2.840.113549.1.9.16.2.47 (id-aa-signingCertificateV2)

アプリケーションで明示的に発行ポリシーを指定していない場合は、自動的に暗黙値で取得されます。この場合の暗黙値とは、SSOL 社のポリシー切替え作業実施までは旧値、切り替え後は新値となります。

なお、SSOL 社の切替え作業以前でも、アプリケーションで明示的にポリシーを指定した場合は新値が取得できます。切替え作業前にアプリケーションで新値を取得できることを確認する場合は、`TimeStampRequest::setPolicy` メソッドで、「1.3.6.1.4.1.955.1.10.1.5.999」を指定してください。

- 取得したタイムスタンプの発行ポリシーについては、`TimeStampToken::VerifySignature` メソッドを使用して
- 今回の **Java SDK** の改修によるインターフェースの変更はありません。ドキュメント、ヘルプは従来提供のものを継続してご利用ください。

以上